

はじめに

ロコモティブシンドローム (ロコモ) の概念が日本整形外科学会から発表されて15年目に入った。ロコモという言葉を知ったことがある国民の割合 (認知度) は50%の手前で足踏みをしているが、医療関係者に限ると過半数に達しているのではないと思う。特に整形外科と関係の深い理学療法士・作業療法士をはじめとするコメディカルの方では、その認知度はもっと高いであろう。認知度の先に目指すものは、理解度の向上である。

本書籍発刊のきっかけは「コメディカルの学生のロコモへの関心度はとても高いのに、まとまったテキストがありませんね」と忠告をいただいたことである。ロコモに関しては医学雑誌に特集として定期的に取り上げられており、2010年と2021年に医師向けの診療ガイドも発行されているのに、確かにコメディカルの方向けのまとまった書籍がなかった。運動器医療に関係する多職種の理解度の向上を目指しているのに、そのための努力が足りなかったと反省した。

はじめ、本書はもっと軽い様式の予定であった。パラパラとめくるだけで、ロコモの概略が分かる程度の内容でもよいと計画を立てた。そのなかで、日本整形外科学会からロコモ関連事業を全面的に委託されている、「ロコモ チャレンジ! 推進協議会」とその関係の先生方に執筆を依頼することにした。NTT東日本関東病院の整形外科の先生方にも無理やり頼んだ。しかし、いざ届いた原稿を見てみると、執筆者の熱意のこもった濃い内容のものになっていた。そのため、出版社の方には、パラパラとめくるだけで概略が分かるように、文章を図で表現する工夫を多くの箇所で行ってもらった。

本書は短時間でロコモを理解することもできれば、さらにその根拠と最新知識を得ることもできる様式と内容を持つことができた。ぜひ、運動器医療に関係する多職種の方々に手に取っていただければ幸いである。

もしかして、後ろからこっそり本書を覗きこんでいる整形外科の先生がいるかもしれないが、そうなれば執筆者にとってのさらなる喜びである。

令和3年11月
ロコモ チャレンジ! 推進協議会 委員長
NTT東日本関東病院 院長
大江隆史

